

会員の皆様

新たな年度になりました。

今年度も皆様と一緒にしっかりと勉強していきたいと考えています。

当会は徐々に活動性を高めており、昨年度は研究会を Zoom で開催しました。

第2回研究会は5月16日に同様に Zoom で開催されることが予定されています。その研究会では、日本でストーカーに早くから専門的に対応を開始された、小早川明子氏が報告します。この∞メールでも後にご案内しますが、HPでは抄録と紹介等をご覧いただけます。

第3回研究会も6月13日に予定されています。その研究会では病的窃盗に関して林大悟弁護士が報告します。

その後も興味深い研究会を計画しています。

皆様、是非ご参加ください。

平井慎二

ワンポイントレッスン

制御刺激は目を開けて行う

平井慎二

条件反射制御法の第1ステージは制御刺激ステージである。このステージの治療作業の目的の1つは、生活を阻害した行動をしたいという欲求や衝動がでて、それらを一気に消す作用をもつ制御刺激を作り上げることである。

まず治療者は対象者と一緒に、働きかける標的の行動に応じて、3～5秒ほどで完了する簡単な動作と言葉の組み合わせを決める。動作は、他者には自然で、行う本人には特殊になるように、いくつかの通常の動作を組み合わせる。言葉は標的の行動に関連のある言葉と、その行動ができないことあるいはしないことを表すものにする。

例を挙げると、覚醒剤乱用が標的の行動であれば、次のようになる。

私は今：右掌を胸に当てる

覚醒剤は：親指が外の拳にして、見る物や景色に向ける

やれない：親指が内の拳にする

大丈夫：親指が内の拳を握る

上記のように動作をしながら、言葉を言う、あるいは思うことは、第二信号系に神経活動を生じて第一信号系に対する刺激になり、また、空間に視覚刺激を作り、音声にすれば聴覚刺激になる。

その動作と言葉の刺激を一度行えば、次の刺激を行うまでに20分は時間間隔をとるが、第1ステージでは一日に20回以上を目標に、数週間で200回以上行う。

また、その刺激を行うときは目を開けて行い、行うたびに見る物や光景を変える。

第1ステージが終わる頃までには、上の刺激は次の3つの効果をもつ制御刺激として成立する。

- 1) 治療の標的とする行動をしたいという欲求あるいは衝動が生じても、制御刺激を行えば、欲求あるいは衝動が数秒で消える。
- 2) 日常生活の中で、そもそも欲求が生じ難くなる。
- 3) 治療の標的ではない行動をしたいという欲求あるいは衝動が生じても、制御刺激を行えば、欲求あるいは衝動が数秒で消える。

今回のワンポイントレッスンでは、なぜ、制御刺激は目を開けて行うかを解説する。

治療する標的の行動を反復していた頃は、日常生活の中で様々な物体や光景から視覚刺激を受けて、その後に標的の行動を行う。その行動の終末に生理的報酬あるいはそれと同様の作用が生じ、それが生じるまでの神経活動が強化され、標的の行動が再現されやすくなる。神経活動の順序は、日常生活の中の物体や光景からの視覚刺激、標的の行動を促進する神経活動、終末に強化効果となる。それを反復したのである。従って、日常生活の物体や光景からの視覚刺激は、標的の行動を生じさせる刺激になっていた。

朝起きたときから万引きをしたい、あるいは覚醒剤を使いたいという患者は少なくない。日常生活の中では意識的には標的行動と関連づけて見ないが、家具の色や形状、あるいはコーヒーカップ、ペン、ドアノブ、服、絨毯の模様、壁の色など生活する空間の全ての視覚刺激が、標的行動を生じさせる刺激であった。視覚刺激だけでなく、さまざまな音も臭いも標的行動を生じさせる刺激であった。覚醒剤を乱用していた者は、トイレの芳香剤の臭いで、覚醒剤がしなくなったとも言う。さらには、自分の呼吸の音だけで覚醒剤をしなくなり、苦しなくなったとも聞いた。

つまり、強度はさまざまであるが、日常生活で受ける通常の刺激が全て標的行動を生じさせる刺激になっている。特定の行動に囚われている者は、生きているだけでその行動をしたいという欲求をもつ状態にも至る。

制御刺激を成立させる作業は、まずは前出の動作と言葉を標的の行動を司る反射をとめる刺激として強化するものであるが、同時に、環境中の促進刺激をひとつひとつオセロのようにひっくり返していくものである。精神を安定させるために味方になる刺激で日常生活をいっぱいにするのである。環境からの刺激の多くを占める視覚刺激を、標的の行動を司る神経活動を促進する作用から制止させる作用に変えて、精神を安定させる刺激にしなければならない。

そのために制御刺激を成立させる毎回の作業は、目を開けて行うことにより第一信号系に環境からの視覚刺激を与え、直後に制御刺激の要素にある標的行動に関連する言葉の刺激を与え、従って当初は標的行動を司る反射が生じるが、20分間は標的の行動を生じさせないため、終末に強化効果はないという順序になっている。強化効果がないために、その前の神経活動、つまり、環境からの視覚刺激の後の標的行動を司る反射は抑制される。抑制が生じるこの作業を反復する。この反復を十分に重ねた後は、環境からの視覚刺激が第一信号系にはいると、標的行動を司る反射は作動しなくなる。このように、制御刺激を成長させる作業を反復すると、日常生活の中でそもそも欲求が生じ難くなるのである。

では、日常生活にある例えばペンが制御刺激と同様に標的行動を司る反射を強力にとめるかということ、そうではない。制御刺激を成長させる作業を過去に200回すれば、その全てにおいて始めに決めた動作と言葉が組み合わさった制御刺激をするので、その制御刺激は強力になる。しかし、その中でペンが視界に入っで行う制御刺激の回数は5回であろうか、10回であろうか、かなり少ないはずである。つまり、ペンなどの環境にある各物体が標的行動を司る反射をとめる効果は小さい。しかし、制御刺激を行う際は、毎回見る物体や光景を変えるので、制御刺激を成長させる作業を何回も行った後は、生活の中で一度に見る視野は、制止する作用をもつ刺激でいっぱいになっている。従って、第1ステージの作業により、生活する空間が安全になる。

制御刺激を行う際に目を開けておく理由はもう一つある。

当初から条件反射制御法が標的とするのは第二信号系ではなく、決意や意思のような、考えとして意識に上ったものではない。条件反射制御法が標的とするのは第一信号系である。制御刺激も当然それに則ったものであり、そのように患者に指導してきた。ところが次のようなことがあった。

制御刺激を条件反射制御法の手順に組み込んで数年を経た頃に、ある患者さんが制御刺激を開始した数日後に、その作業を正確にしているかをみるために私の目の前で制御刺激をしてもらった。その患者さんは「はい、やります」と素直に言い、目を閉じて、動作は正確であったが、言葉は数日前には「やれない」で開始したのに「やらない」に変化しており、完了までに短い言葉の中でも声はだんだん切羽詰まったようになり、眉間にシワが寄り、見事に制御刺激を念じ上げた。

気持ちは伝わってきたが、大間違いであった。開眼で行うこと、並びに言葉をやれないに戻すことを指導した。

制御刺激の作業は、メカニズムを不明にしたまま使われていることが多い言葉である「意思」を強めるものではない。制御刺激を成長させる作業においては、環境からの刺激を受け、制御刺激からの刺激を受け、生理的報酬が生じない現象を確実に作り、それを反復するものである。条件反射制御法は理論的なものであり、進化の課程で成立し、一時点では機械のように動く第一信号系に働きかける技法である。制御刺激は「意思」を強めるものではなく、決意を固めるものでもなく、念じるものでもないのであるが、そのような間違いが生じる原因になることが、おそらくは閉眼なのである。従って、制御刺激は目を開けて行う。

事務局からのお知らせなど

理事会の報告

2022年3月9日に開催された理事会で検討された事項を報告します。

1. 学術集会

第11回学術集会では宮田桂子弁護士から講演をいただく予定。

事務局スタッフは下総精神医療センターに集合して、Zoomでライブ配信する。一部は下総精神医療センターに集合可とすることも検討する。

2. 他学会での報告

日本精神神経学会において2022年6月、長谷川医師を中心にして「盗癖に対する治療と司法的問題」をタイトルにしたシンポジウムを開く。当会からは林大悟弁護士、平井慎二医師も参加する。

日本犯罪社会学会において2022年10月、飯野海彦理事を中心にして信号系学説に基づく主張を行う計画がある。

3. ストーカーへの対応

小早川明子理事からストーカーの分類、対応について解説があり、今後、学会が行うべきことは、ストーカーの病態を明確にしてその定義を作ることであり、条件反射制御法の有効性を主張し、その治療が受けられる刑事司法体系の制度を整えるべきであると報告があった。

CRCT を受けられる施設を公開しています

条件反射制御法を受けたい方に、どこにいけばこの技法が受けられるかを伝えるため、当会のホームページ [CRCT 実施施設](#) で公開しています。現在 26 施設です。

ご協力いただける方は事務局のメール、crct.mugen@gmail.com 宛に下記項目をお送りください。

- ・ 貴施設名、所在地、電話番号、メールアドレス、ホームページ URL
(施設写真の掲載希望がございましたら画像データを添付してください)
- ・ 申込窓口 (担当部署・担当者名等)
- ・ コンタクト方法 (例：電話、E-mail、HP 申込フォーム)
- ・ CRCT を提供している場
(例：入院病棟、外来、カウンセリングルーム、回復支援施設等)
- ・ 対象にしている疾病
- ・ 施設の特長 (フリーコメント なんでもどうぞ)

援助側と取締処分側の∞連携支持施設を紹介しています

治療を求めた患者による規制薬物使用への対応として、患者の治療意欲と社会の平安を保つ観点から効果的であり、また、司法の観点からも合法と考えられる方法を採用し、実行に移している施設を当会のホームページ [∞連携支持施設](#) で公開しています。現在 6 施設です。

∞連携に沿う態勢で実務をされており、当会の HP に∞連携支持施設として掲載可能な場合は事務局のメール crct.mugen@gmail.com 宛にその旨をご連絡くださいますようお願いいたします。

条件反射制御法に学術集会・研究会のご案内

1. 学術集会

条件反射制御法学会 第 11 回学術集会

日 程：2022 年 9 月 10 日 (土)

テーマ：薬物乱用に対応する者の役割と連携

2. オンライン研究会

第2回研究会

テーマ：ストーカー行為のメカニズムと治療

報告者：小早川明子（NPOヒューマニティ理事長）

日時：2022年5月16日（月）19～21時

詳細：https://crct-mugen.jp/research/no-02_researchsociety/

第3回研究会

テーマ：万引き事件に対する刑事弁護

報告者：林大悟（鳳法律事務所所長）

日時：2022年6月13日（月）19～21時

詳細：https://crct-mugen.jp/research/no-03_researchsociety/

時期未定

テーマ：海獣類における問題行動への対応

報告者：勝俣浩（鴨川シーワールド館長）

条件反射制御法に関する研修会・実地研修等のご案内

・オンライン研修会シリーズ3

第1日 2022年5月21日（土）10：00～15：00

第2日 2022年5月28日（土）10：00～15：00

詳細：https://crct-mugen.jp/training/online2022_03/

・第3回韓国研修会

2022年4月9日（土）10：00～17：00

条件反射制御法学会と韓国条件反射制御法研究会が共催します。

講義は日本語で行われた後、韓国語に翻訳されます。

症例報告は韓国語でなされます。

ご投稿について

条件反射制御法研究および∞メールへ奮ってご投稿ください。

宛先：事務局 crct.mugen@gmail.com

●条件反射制御法研究

学会誌「条件反射制御法研究」は年一回発行しています。投稿規定は最終号の巻末に掲載されています。ご投稿をお待ちしております。

●∞メール

C R C Tや信号系学説に関係する小論、C R C Tを用いての治療体験あるいは回復した体験、実地研修の体験、他の学会で報告した感想、裁判でC R C Tの効果が認められた体験等に関して1600字程度の報告をお待ちしております。

発行

条件反射制御法学会事務局

〒162-0055 東京都新宿区余丁町 14-4 NPO 法人アパリ内

<https://crct-mugen.jp> crct.mugen@gmail.com

TEL:090-3047-1573 FAX:050-3458-0214